

デジタルアーカイブ学会 2025年度 第1回 理事会 議事要旨

出席者:吉見会長、(以下理事)井上透 太下 緒方 大向 北本 黒橋
数藤 平良 谷川 田良島 林 福井 福島 細井 細矢 前川
松山 柳 渡邊、(監事)城田

次期理事候補者:井上奈智 内田 久世 古賀 鈴木 高田

1 審議事項

1.1 2025年度第1回通信による総会の実施

→6月10日から23日を議決権行使期間として、会員に投票を求めることが承認された。

1.2 2024年度事業報告案の承認

* 2024年度事業報告書の説明:事務局担当理事(田良島)
事業報告書案に基づいて説明した。
→承認された。

1.3 2024年度決算案の承認

- * 2024年度財務諸表の説明:財務担当理事(太下)
- 単年度での収支がわかりづらくなっていたため、本年度より、会計方式を単式簿記とした。
 - 会費収入は会員増に伴い増加。学会誌収入は、広告収入が見込みに届かず、減。研究大会収入は、協賛金・企業広告が多く、増。全体としては若干の増となった
 - 支出のうち、学会誌費用は刊行ページ数の状況により減。研究大会費用は減。研究会費用は、大半の研究会がオンラインで実施され、会場費や印刷費が発生しなかったため、大幅減。広報費は若干の減。会議は若干の増。事務費は、委託事務の増加を想定していたが、2024年度中は実施に至らなかったため、減。
 - 単年度で190万円あまりの黒字となったが、研究大会の開催場所や実施形態、研究会の実施状況などによって収入支出の振れ幅が大きいため、単年度の収支(黒字/赤字)の予測が困難であるとともに、容易に赤字に転じる懸念を抱えている。
 - 今年度以降、未収金の管理事務を適切に行う必要がある。
 - (質問)未収金の規模感はどの程度か
 - (回答)2024年度実績で納入率83%。おおむね当年度中に納入される会費が全体の85%ほどと見込んでいる。
- * 2024年度監査報告:監事(城田)
- 2名の監事で会計に関する報告と書類を照合した結果、適切に会計処理が行われている旨、報告する。

- 会計処理の状況は、昨年度に比べて、わかりやすくなったと感じられた。
- 事業報告、財務諸表とも承認された。

1.4 規約改正案の承認

* 規約改正案の説明: 法務担当理事(数藤)

- 役員として副会長を置くために、関連条文を改正する。

→承認された。

1.5 2025-2026年度 役員選任案の承認

* 役員選任案の説明: 総務担当理事(柳)

- 前回理事会で概要を説明したが、大きな変更はない。吉見会長は、理事として留任いただくこととしたい。

→承認された。

1.6 会費改定案の承認

* 会費改訂案の説明: 事務局担当理事

- 正会員会費 年6,000円から8,000円、賛助会員会費 年10,000円から12,000円。学生会員 年会費1,500円は据え置きとする。2026年度会費から適用する。

→承認された。

1.7 2025年度予算案・事業計画案の決定

* 事業計画案の説明: 総務担当理事

- 政策提言2025の具体化に向けて、活動を充実させる。
- ウェブサイトの全面的なリニューアルを行う。
- 「デジタルアーカイブ・ベーシックス」は今年度刊行の巻で終了する。

* 予算案の説明: 財務担当理事

- 会費収入は、想定納入率(85%)による金額と未納会費の回収(50%)と想定する。協賛金・広告費は少ない前提としている。
- 支出では、会員管理、会計事務の委託費が大幅増となり、今後固定的な経費となる。
- ウェブサイトのリニューアルが大きな臨時的な経費となる。
- 全体として、単年度で80万円あまりの赤字となるが、昨年度までの繰越金があるので、2025年度は資金の不足は生じない。
- 安定的な収入としては会費が基本であるが、現状のままだと基本的な活動のみ行っても赤字が続く見込みで、会費改定が必要となる。納入率をあげる方策も必要。
- 予算の策定のために、各事業を執行している理事との間で、必要な経費の情報の共有を行う場を設定することが望まれる。
- 会員規模が1000名を超えると、より全体的な業務委託が合理的となることが予想される。今後、検討が必要と思われる。

→承認された。

1.8 入退会承認

→2025年2月から5月の間の入退会者が承認された。

2 報告事項

2.1 第10回研究大会開催地の決定

* 報告: 総務担当理事

→2026年1月9日(金)-10日(土)、国立情報学研究所(一橋講堂、会議室)で開催することとなった。実行委員長は北本朝展理事が担当する。

2.2 第5回DAフォーラムの準備状況

* 報告: DAフォーラム担当理事(加藤: 当日欠席のため別途報告)

- 第5回DAフォーラム 2025年6月29日(日) 13:00~16:00
- オンラインで報告10本を予定。

2.3 ウェブサイトの更新

* 報告: ウェブサイト担当理事(松山、大向)

- 松山理事・大向理事で分担してリニューアル作業を実施中
- 本年度予算が承認されたので、制作を外部依頼する。
- 現サイトの構造がかなり複雑になっており、サイトマップを再編成中
- 制作依頼先の予定により、多少遅れ気味となっている。
(質問)各部会等はウェブサイト運営の権限を持てるようになるのか
(回答)これまでの各部会等に権限を分散する方向で運用方針を考えている。新サイトでも担当ページを自由に編集していただけるようにする予定。

2.4 各担当理事報告(部会等)

* 法制度部会(福井、数藤)

- 知財推進計画2025、デジタルアーカイブ推進懇談会の「戦略」等で方針、施策、目標値が取り上げられている。自民党の知財調査会提言では、当学会からの提言内容が大幅に反映されている。デジタルアーカイブ振興法の制定や、国会図書館のデジタル化のさらなる充実を求めている。

* 技術普及部会(北本)

- 第10回研究大会でも技術相談会を開催する予定である。

* 地域アーカイブ部会(前川)

- 参加者が多様なため、なかなかまとめづらいところがあるが、アーカイブの裾野を広げてゆくため、今年度も引き続き活動したい。

* 産業とデータ・コンテンツ部会(太下)

- 引き続き紹介できる事例の情報をお寄せいただきたい。
- 学会誌への反映(特集記事)を計画している。
- 単純な紹介だけではなく活動のフェーズも考えていきたい。

* SIG デジタルアーカイブ理論研究会(柳)

- 学会設立10周年に向けて、理論面での成果レビューと今後の展望を示したい。

- * SIG「デジタルアーカイブとオープンサイエンス」研究会(林)
 - デジタルアーカイブとオープンサイエンスの接点となる課題をテーマとした企画を本年度も行いたい。
- * 人材育成・活用検討委員会(井上)
 - デジタルアーキビストのジェンダーの問題、機関予算の縮小によるデジタルアーカイブの存続と人材育成の問題、トランプ政権の政策によるアーカイブへの影響の問題など、考えてゆきたい。
- * 学会賞選考委員会(福島)
 - 次回の選考に向けて準備を始めたい。
 - このたび、選考委員が大幅に交代することとなり、各理事にはご相談することが出てくるので、よろしくご協力いただきたい。

吉見:本学会は2027年春に設立10周年を迎える。周年事業は、企業等に協力を求めたり、社会に訴えたりするのによい機会である。長尾前会長の電子図書館構想からも約30年となる。来年度には動き始める必要があると思うので、各理事は念頭においていただきたい。

3 その他

多数の役員の交代が見込まれるため、事務局から創設以来の会員数の推移、研究大会の発表数、学会誌の論文掲載状況、各年度の収支の推移について報告し、認識の共有を図った。

黒橋次期会長、現職理事・監事、次期理事候補者から、それぞれ自己紹介を行った。